

長崎県小離島における HCV キャリアの micro-elimination を目指した取組み

研究分担者 山崎一美

国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター・臨床疫学研究室長

研究要旨

長崎県小離島（人口 4,651 人）において、全住民を対象に C 型肝炎ウイルス抗体を用いたスクリーニングを行った。1990 年から開始し受診者は実人数で 5,632 人に達しほぼ全住民のスクリーニングが行われた。このうち 79 名の C 型肝炎罹患患者を確認し、医療機関へ紹介した。2020 年までの最終転帰について、転居者 19 名を除いて検討した。死亡例は 53 例（肝疾患関連死は 18 例（30%）、他病死 35 例（58.3%））。生存例は 7 例（11.7%）であった。生存中の 7 例は全員抗ウイルス療法にて SVR となっていた。つまり、2020 年当該地域の C 型肝炎ウイルスキャリア患者は存在しない。

研究協力者

小値賀町国民保険診療所・所長	田中敏己
長崎県上五島病院・院長	八坂貴宏
長崎県上五島病院・名誉院長	白濱敏
上五島病院・検査室技師長	平瀬和廣

A. 研究目的

C 型肝炎ウイルス（HCV）感染症は、治療薬の進歩により 100% に近いウイルス駆除が見込めるようになった。Direct Acting Antiviral（DAA）は経口内服薬であり、インターフェロン（IFN）・フリーの画期的な治療法である。IFN 治療と異なり高齢者に対する副反応の影響が少なく、導入において障害が少ないことから、多くの患者への治療導入が可能となった。これにより HCV 罹患患者の急速な減少が期待されている。

WHO は 2030 年までに HCV の撲滅することを目標としており、日本はそのトップランナーを目指したい。我々は長崎県の離島において 1990 年から地域及び職域健診で HCV 抗体スクリーニングを開始し、多くの C 型肝炎患者を長期にわたり観察、診療、治療導入を行い、そして最終転帰まで追跡してきた。IFN-free 治療の導入後は、当該地域の HCV の

撲滅を目指して取り組んできた。本研究では、その成果について検討した。

B. 研究方法

長崎県の離島である小値賀島住民を対象とした。対象地域の人口は国勢調査において 1990 年 4,651 人、2015 年 2,560 人であった。地域健診および職域健診で 1990 年から HCV 抗体検査を毎年行った。また島内の唯一の医療機関・小値賀診療所においても初診患者および再診患者のうち HCV 抗体未検査患者を対象にスクリーニングを行った。2000 年までの受診者は実人数で 5,632 人であった。このうち HCV 抗体陽性者は医療機関へ紹介し、全例 HCV RNA（PCR 法）を確認した。

C. 研究結果

(1) 2019 年までの HCV RNA 陽性者は 79 名であった。陽性率は 1990 年の人口 4,651 人に対して 1.7%であった。

(2) 79 名中、男性 41 名（51.9%）。出生年別の内訳は、1910 年以前 4 名（5.0%）、1910 年台 13 名（16.5%）、1920 年台 31 名（39.2%）、1930 年台 23 名（29.1%）、1940 年台 5 名（6%）、1950 年台 3 名（3.8%）と、1920 年-30 年台で 68%を占めていた（図 1）。

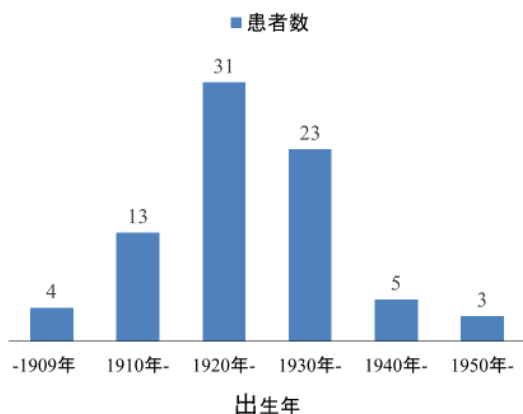


図1 C型肝炎患者79名の出生年

(3) スクリーニング後、医療機関で IFN 治療が導入された症例は 4 例、IFN-free 治療は 6 例であった。Sustained viral responder (SVR) はそれぞれ 2 例、6 例であった。

(4) 島外へ転居して生死が不明である 19 例

(24%) を除いて、2020 年 10 月までの転帰について検討した。死亡は 53 例で、肝疾患関連死は 18 例 (30%)、他病死 35 例 (58.3%)。生存は 7 例

(11.7%) であった。生存中の 7 例は全員抗ウイルス療法にて SVR となっていた (図 2)。

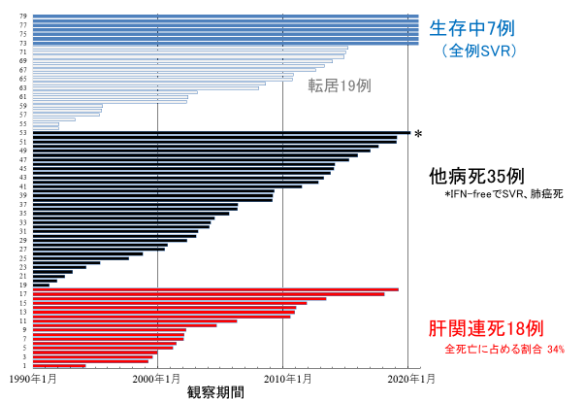


図2 C型肝炎79例の経過

(5) 令和 2 年の HCV 抗体スクリーニング検査で新規感染者は確認されなかった。

D. 考察

HCV 抗体スクリーニングを開始した 1990 年の当該地区人口 4,651 人に対して、5,634 人が肝炎ウイルス検査を受診した。受診者が人口より多い理由は、1990 年以降に当該地区への転入者がいるためである。よって当該地域の住民のほとんどが受診したと想定される。しかしながら地域の撲滅を明らかにするために、小値賀町、長崎県国保連合会、長崎県後期高齢者医療連合会、共済組合、協会けんぽ・健保組合の協力をいただき未受診者の検索を行っている。同時に令和 2 年度以降の肝炎ウイルス検診で新規陽性者の確認も継続している。令和 2 年度の健診において新規陽性者はいなかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で受診率が低く、結果の信頼性は十分ではない。令和 3 年度以降の健診受診の評価が待たれる。

E. 結論

長崎県小離島の C 型肝炎ウイルスの撲滅した可能性が高い。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

今回の研究内容について特になし